

道の駅

担当者 様

先日の夜も含め、度重なる説明会、ご苦労様でした。
一区切り着いた段階ですので、例の【32万人問題】について、改めて、補足説明をして【政策的議論】させて頂きたく思います。その上で、個人的にもご理解頂ければ幸いです。

「18万人多い」とした「**分析方法論**」に関して

「分析方法論」などを書くといかにも大げさに思うかも知れませんが、自然科学でも社会科学でも人文科学でも、そうだと思うのですが、分析するときには、【**方法論**】があり、そこに1つの共通性があると思っています。

その第1番目は、分析対象の【**純化**】です。
別な言い方をすれば、【**前提条件の整理**】です。
哲学用語で言えば、【**抽象化**】とか【**捨象**】という概念の領域です。

つまり、いくつかの要素によって作られている【**データ**】を分析するとき、自分が知りたいと思っている対象を浮きだたせるために、とりあえず、異質な要素を除外（捨象）して、言わば純化させる作業が必要です。自然科学で言えば、不純物を取り除いたり、【**有効性を保持したデータ集団からかけ離れた実験値を排除していく作業**】です。

今回の【**道の駅**】の来客数のカウントの推計で「捨象」すべき対象は何か、と考えたときに、「大型車・小型車」の分類データと車種別（乗用車・小型貨物車・普通貨物車・バス）データの検討から始めるべきだと考えました。
すなわち、どちらの数値を重視したら良いのかということです。私は「道の駅の目的」と「車の利用目的」の関係がはっきりしたデータを選ぶべきだと考えました。
つまり、【**大型車・小型車**】だけのデータには、「不純物」(?)が、混濁していて、【**道の駅**】と「各車の利用目的」の関係が、抽出できないと考えたのです。

つまり、安平の「道の駅」の立ち寄り目的を①農産物の買い物、②鉄道記念館見学③食事（レストランはない。パンとテイクアウトのみ・開店時間午前9時から）④トイレ・休憩と分類したとき、仕事で走っている【**貨物車**】の利用目的を考えてみると、④を除いた利用目的には、積極的根拠はあまりないのではないかと思ったのです。もちろん、中には、①②③を利用する貨物車もあるだろう、とは考えましたが。しかし、それは、自然科学の実験データの処理から言えば、【**有効性を保持したデータ集団からかけ離れた実験値**】であって、【**道の駅**】の場合は、【**一時的**】に除外（捨象）してかまわない数値だと考えたのです。

その結果、【**道の駅**】の営業に関わる車輛の立ち寄り数の計算からは、一度、【**貨物車**】を「捨象」する作業（ゼロにする作業）をしたのです。

その結果、訪問者数は、32万人ではなく14万人となり、「18万人」が多く計算されているという結論になったのです。

因みに、「18万」は、貨物車の数でもあり、運転手の数でもある事です。

ただし、【道の駅】の来客数の検討の場合は、こうした一時的処理を行った上で、現実近づけるために、【貨物車の立ち寄り数】として、【どの程度の数値】を加えたらよいか、という「二次的検討」が必要になってきます。

その場合、どこから、どんな調査・データを利用するか、という新たな検討課題があります。しかし、それを今私が具体的に示すことは出来ません。

欲しいデータとしては、安平町の道の駅と似た条件での「交通量」の中での、貨物車と一般車両の利用率の差の【データ】があれば、【二次的処理】に進むことができ、私が試算した14万人に貨物車の運転者分としていくらかの【追加】が可能となります。その時は、「④トイレ・休憩」と営業部分①②③の合算が可能となるはずですが。

なお、調査会社が採用している【立ち寄り率】が、適当であるか否かについては、全く触れていません。そこまで、立ち入る論拠を持ち合わせていないからです。只、言えることは、調査会社の【立ち寄り率】が、正しいという前提に立っても、町の推定は18万人が多く計算されているという事実があるということです。

【32万人】の検討のもう一つの視点「相関係数」について

【相関係数】という言葉聞いたことがあると思います。

要するに【相関関係】の強弱(?)を数値で示したもので、両者に相関関係がどの程度存在するかを示した数値です。

ご存じかも知れませんが、一応、確認のために基準数値を書いております。

(相関係数)

- 0.2未満・・・・・・・・・・相関関係なし
- 0.2～0.4未満・・・・・・ 〃 低い。
- 0.4～0.7未満・・・・・・ 〃 適当
- 0.7～1.0未満・・・・・・ 〃 高い。
- 1.0・・・・・・・・・・完全相関

例えば、「道の駅」の「収益」と「来客数」との相関関係ですが、おおむね、以下のように相関係数を推測できます。

例1、貨物車の運転手18万人が、仕事途中であるために、主に、【トイレの利用と休憩】だけに利用したとすれば、【収益と来客数】の相関係数は、0.2以下となり、「相関関係なし」ということになります。

仮に、貨物車の運転手が、パンを買った人の数を見積もったとしても、果たして、0.4を超えるだろうか、と考えます。

従って、来客数32万人の中には、こうした収益と相関関係の「低い」又は「なし」の 数値が18万人も含まれていることになります。

そうすると、**【道の駅】の【収支想定金額】が、大きく狂うことになりませんか？**

そうすると、400万円（維持管理費は含まれていない）の黒字は、ありえませんが、正規職員4名、パート10名は、難しくなるでしょう。

それ以上に問題なのは、町からの**【赤字補填】**です。益々、町民負担が多くなります。

例2、バス、乗用車の相関係数

バスの台数（乗客数）と、収益との相関係数は、見聞上、高いものがあると推測されます。従って、0.7を超え**【相関係数が高い】**ことになると思います。只、残念ながら、総台数が、乗用車、貨物に比べ少ないことです。

他方、乗用車の数（人数）と収益の相関係数は、バスより低いものが見聞上から推測すれば、**【相関関係は適当】**という範囲かも知れません。

【まとめ】

- 1, 来客数32万人の前提が、**【大型車と小型車】**という数値に基づいており、その前提が、来客数を狂わせていること。
- 2, 来客数の計算は、**【車種別】**での検討が必要なこと。
- 3, 利用車種別の**【相関係数】**も考慮されるべき事。

担当者の方へ

仮に、私の説明を理解しても、担当者として**【来客数32万人】**を変えるわけに行かないと思っております。少しの手直しもできない理由は、私なりに理解しているつもりです。

32万人にしておかないと、**【道の駅】**の「収支想定金額」が全てが狂ってしまいますし、雇用者数も少なくしなければならなくなります。

そうすでは、赤字補填を認めなければならなくなりますから、これは、町長サイドが許さないでしょう。

私の指摘を認めてしまえば、計画自体を見直さなくなるからですね。

平成27年6月17日